

作品一つひとつと向き合って  
一人ひとりと向き合っています。

陶芸家・若狭祐介さん



GoON!



寶持寺  
山下崇晴さん

ETAJIMA **GoON!** Vol.4



工房では、陶芸家・蓮尾寧子さんと並んで作品づくりに没頭。所せましに納品予定の作品がずらりと並んでいる。2階にあるギャラリーでは2人の手掛けた作品を買うことも可能。

いた祖父だった。「社会に対する反抗心もあったし、勝手に裏切られた気持ちになっていたんです。そんな時、家族とか周りにいる人たち以上に僕ときちんと向き合ってくれたのが祖父でした。ああしろ、こうしろとも言わず、大きな包容力で包んでくれる。だから、毎週末何をするわけでもないのですが、広島市内からバイクでここまで来て、祖父と一緒に時間を過ごしていました」

その時、若狭さんの祖父が寝る間を惜しんで、夢中になっていたのが、陶芸だった。すごく楽しそうな祖父の姿を見た若狭さんは、次第に陶芸に興味を持つようになっていったという。「朝から晩まで、ずっと作業を見ていたのですが、祖父は『やってみるか?』とは言わない。そしたら自然と触ってみたくなって。いざ陶芸をやってみると『なんかしっくり来た』というわけです(笑)陶芸の道へ進むきっかけをくれた祖父との思い出と共に、導かれるように移り住んだこの地。若狭さんにとっては、ある意味この場所が、パワースポットなのだろう。

**祖父の後押しで、本格的な陶芸の道へ**

陶芸に触れるうちに、思い出していくモノづくりの楽しさ。気づけば、陶芸にハマっている自分がい



Vol.4  
大柿町・柿浦  
陶芸家  
わかさ  
若狭祐介



るうちに、忘れていたことを思い出していききました。しかも、祖父は僕が小さい頃に紙粘土で作ったものを大事に持っていてくれていて「昔から、お前はしっかりモノを作れていると思うぞ」と言っている。それが後押しになって、もっと陶芸をやってみよう、という気持ちにさせてくれましたね」

それから約5年間、若狭さんは祖父と一緒に時間を過ごした。今の自分につながる、大切な時間だった。「祖父が亡くなった時、僕には何も言わなかったのに、周りには『ここまで一緒に陶芸をやったのだから、ちゃんと勉強すればいいのに』と言っていたと聞いて：ちゃんと勉強しようと思っ、大学に入ったんです。そこからが本格的なスタートですね」

若狭さんの作品は、実に様々だ。美しく、しっかりとした造りでありながら、どこか温かい雰囲気がるように思える。これまでのお話を聞いてから、改めて見た若狭さんの作品が、より一層温かく感じたのは言うまでもない。

**違いを生みだし**

**「超えるモノ」を生み出す**

制作過程の中で「違いとは何か」を常に考えているという若狭さん。「たぐさんの陶芸家がいまさら、僕たちはどうしても違いを出さなければいけない。多くの人に作品を届けたいからこそ、何を作るにしても、違いを生みだすことを僕はとても大事にしています」

若狭さんは日常で使える器類からオブジェまで、様々な作品を作っている。「どちらかというと造形作品が好きで、オブジェを作っていたのですが、デザインや形を一からひねり出すだけで物凄く時間がかかるし、体力的にもしんどい。そういう時の発想転換で、美術的要素も含まれたモノも作れた



誰かの人生へ  
作品を届ける場所

陶芸工房と工房併設ギャラリー・10サンジ

陶芸家夫婦が営むこの場所には  
たくさんの素敵な思い出と  
美しく、温かい作品が詰まっています。

導かれるように  
祖父との思い出の場所へ来た

若狭祐介さんと蓮尾寧子さん夫婦が営む、看板の無い陶芸工房と工房併設ギャラリー・10サンジ。全国各地のお店や展示会で巡り合うことのできる2人の作品は、ここで生まれている。若狭さんは、10年前に祖父の家であったこの家へ、同じく陶芸家である妻の寧子さんと共に移り住んだ。「環境は制作に適していると思います。気候も穏やかで、静かで。元々、祖父が住んでいた場所という地縁もありますし、とても気に入っています」

優しい眼差しでお話ししてくれるたくさんの思い出話。その中心には「祖父」の存在があった。「これからの人生を決めていく時に、自分がしたいと思えることが何もなかったんです。この先どうしたらいいのかと何年も悩んでいた時期があって、悶々として過ごしていました」10代半ば、思春期を迎えた若狭さんに向き合ってくれたのが、この家に住んで

らいいなと思って、器も作り始めました」  
佇まいや、全体の雰囲気。もちろん使い勝手も大切だが、「そこを超えたモノ」という印象がある器たちは、性別や年齢を問わずたくさんの方の手に渡っている。「僕の作ったモノを通して、美術的部分を共感してもらえたらとても嬉しいですね」

コロナ禍で世の中の動きが大きく変わっても、若狭さんのやることは変わらなかつた。「この世界が変わる前の状態と、あまりやっていると自分には変わりません。ただ、この機会に自分を見つめ直す時間が増えて、もっと自分の中にある思いを形にしたものをお見せしたい、と改めて思うことができたのは良かった。とにかく、もっとたくさんの方に作品を届けたい。だから自分のやるべきことは、ただひたすら、作品一つひとつと向き合っていて、作品を通して一人ひとりと向き合うことですかね」

ただ気に入った作品を、器を、買うだけでもいい。しかし、こうした作り手の思いやバックグラウンドを知り、工房やギャラリーに直接来てみると尚、自分が手にした作品に納得するのではないだろうか。

陶芸工房と  
工房併設ギャラリー・10サンジ

陶芸家夫婦が肩を並べて、作品づくりに勤しんでいる、陶芸工房と工房併設ギャラリー・10サンジ。若狭さんの思いがたくさん詰まったこの場所から、今日も誰かの人生に作品を届けている。

0823-5716020  
※見学は事前連絡が必須です